

高商生の調査報告書

杉 岳 志

一橋大学附属図書館には、一橋大学の前身である高等商業学校・東京高等商業学校（神戸高等商業学校の設立に伴い、明治 35（1902）年に高等商業学校から東京高等商業学校へと改称。便宜上、以下では両者を統一して「東京高商」と略記する）の学生の手になる調査記録が残されている。その数 440 点。一部の資料については、画像ファイルが一橋大学附属図書館の「近代日本経済史・経営史デジタルアーカイブ¹」にて公開されている。

下の画像は、一橋大学附属図書館ウェブサイトに掲載されている資料一覧の冒頭部分である。一見して明らかなように、請求記号は資料名・作成者名・調査年・内容いずれの順

一橋大学附属図書館
HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY

HOME 図書館利用案内 学内図書リンク 情報検索レポート 広報・展示 図書館の組織・活動 お問い合わせ・お申し込み

HOME > 所蔵資料目録リスト > 修学旅行等報告書一覧

修学旅行等報告書一覧

資料解説

著者の没後60年を経た資料ならしめにご連絡より許諾をいただいた資料はインターネット上で公開しています。ご覧になるには資料名をクリックしてください。

請求記号	資料名	作成者	調査年
A2n1	歴徳日建神代ニ於ケル米穀取引ニ關スル調査	緒方清	1916
A2n2	山形及熊本ニ於ケル米穀倉庫調査報告	緒方清	1916
A2n3	阪神海運事情調査報告書	井藤半彌	1917
A2n4	近畿通商ニ於ケル運賃ノ變動	村松恒一郎	1918
A2n5	九州航路事情調査報告書	曾野近一	1919
A2n6	青島ノ経済的価値	小野田友吉	1916
A2n7	大連港ノ發達	橋谷友助	1916
A2n8	神戶及舞鶴ニ於ケル本邦海運市況ニ就イテ	神原近三	1920
A2n9	濠洲ニ於ケル通商及ビ貨物運送ニ關スル調査報告書	岩能万蔵・松野中	1919
A2n10	阪神中倉産業調査報告書	石黒元彦	1919
A2n11	九州地方石炭運送事情	織田孝吉	1915
A2n12	北海道ニ於ケル石炭取引調査報告書	室崎清	1915
A2n13	北海道樺太産米調査報告書	田中金司	1916
A2n14	山東省視察報告書	西山勉	1906
A2n15	上海ノ金融	關保人	1921
A2n16	上川地方米穀取引調査報告書	淺野長七	1891
A2n17	東洋硝子株式会社事業現況	渡辺正明	1915

修学旅行等報告書一覧（部分）

1 <http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/da/ebhj.html>（2011年3月1日現在）

番にもなっておらず、報告書が秩序立てて整理された形跡は見出せない。筆者には見えていない秩序が存在する可能性も残されてはいるが、資料が昭和10(1935)年1月以後断続的に図書館へ移管されていることから推測すれば、資料は無秩序な状態で移管され、端から機械的に番号を付与されたのだろう。

資料の序文などから判断する限り、本資料群は次の4種の報告書で構成されていると考えられる。

- ①東京高商本科の学生による修学旅行報告書99点(在学中に東京高商が東京商科大学へと昇格したのに伴い、執筆時には東京商科大学の学生となっていた学生の報告書2点を含む)。明治21～大正10(1888～1921)年度作成分が現存。東京高商では成績優秀な学生若干名に旅費を支給して夏季休暇中に地方を視察させる修学旅行の制度が明治21(1888)年に定められ、調査に赴いた学生は帰着後に報告書を提出した。優秀な報告書は東京高商から出版された。
- ②東京高商附設商業教員養成所の学生による修学旅行報告書71点。明治34～大正2(1901～1913)年度作成分が現存。
- ③東京高商内国実践科(実践課とも)へ提出された報告書263点。明治30～33(1897～1900)年度作成分が現存。①と同様、優秀な報告書は出版された。
- ④実習見習の報告書や教員が留学した際の報告書など、①から③のいずれにも分類することのできない報告書7点。

点数は③の内国実践科へ提出された報告書が過半を占めるが、内容が充実しているのは①の本科学生による修学旅行報告書である。そのため、本資料群は「修学旅行等報告書」と通称されている。

北海道に関する報告書は12点あり、うち11点が本科学生による修学旅行報告書である(別表参照)。明治20年代には毎年のように学生が北海道へ赴いており、当時、北海道経済の現状を把握することが急務と考えられた様子がうかがえる。小樽は函館と並ぶ海運の中心地として、北海道の中でも重点的に調査された。とりわけ亀井藤重・土屋豊吉『修学旅行報告書』(明治22年調査、Azn:403)、八十島親徳・北村久義『北海道及青森岩手宮城福島四県修学旅行報告書』(明治26年調査、Azn:119)、星野唯三『北海道商工業視察報告書』(明治36年調査、Azn:84)の3点は記録内容が詳細であり、明治20～30年代の小樽の状況を伝える貴重な資料であると思われる。

学生による調査報告書は、小樽高等商業学校でも作成された。「小樽高等商業学校産業調査報告書」と名付けられたこの学生調査報告書は、小樽高等商業学校産業調査会から小樽商科大学経済研究所資料室を経て、現在は小樽商科大学附属図書館に所蔵されている。総点数は216点、作成時期は大正元(1912)年から二度の中断を挟んで昭和22(1947)年に及ぶ。

長谷川伸三・今野茂代「小樽高等商業学校産業調査報告書目録²」（『商学討究』第41巻第4号、1991年）によれば、小樽高商では夏季休暇中に学生を北海道とその周辺に派遣して報告書を提出させ、優秀な報告書は公刊した。この制度は東京高商本科の修学旅行と酷似しており、小樽高商の調査報告制度の設計に東京高商出身の教員が関わったものと推測されるが、詳細は不明である。今後の研究に俟ちたい。

〈北海道に関する東京高商学生調査報告書一覧〉

資料名	調査年	請求記号
亀井藤重・土屋豊吉『修学旅行報告書』	明治22年	Azn：403
下條直幹『北海道修学旅行報告書』	明治23年	Azn：120
児玉謙次・柳谷巳之吉『東北地方修学旅行復命書』	明治24年	Azn：142
八十島親徳・北村久義『北海道及青森岩手宮城福島四県修学旅行報告書』	明治26年	Azn：119
須田鏡造・岩橋大六『北海道商工業視察報告書』	明治28年	Azn：121
大竹勝一郎『北海道鯨漁業調査報告書』	明治29年	Azn：391
村井善二郎『北海道修学旅行報告書』	明治30年	Azn：77
武田英一『北海道昆布生産業及其輸出概況』 （※内国実践科へ提出）	明治35年	Azn：275
星野唯三『北海道商工業視察報告書』	明治36年	Azn：84
信貴英蔵『北海道輸出木材調査報告書』	明治40年	Azn：404：4/6
宮崎清『北海道ニ於ケル石炭取引調査報告書』	大正5年	Azn：12
田中金司『北海道樺太紙料業調査報告』	大正5年	Azn：13

（一橋大学附属図書館専門助手）

2 小樽商科大学学術成果コレクション Barrel に全文が公開されている。
<http://hdl.handle.net/10252/1560>（2011年3月1日現在）